

令和4年度 学校自己評価結果等報告書

学校名 (豊岡市立三江小学校) 校長名 (河本 純子 印)

1 学校教育目標

可能性に挑戦！
～肯定的な関わりの中で非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～

2 学校教育推進の視点

- (1) 「教育課程・非認知能力・読書活動」に対応した校内研修の推進
- (2) 人権教育・特別支援教育を学校経営の根幹に据えた教育活動の推進
- (3) 「子どもに寄り添い、子どもの事実から学び、子どもの個性や能力を伸長する」教育の推進
- (4) 「地域教材に学び、地域人材を活用し、地域社会に開かれた」学校づくりの推進

3 総合的な自己評価

学校教育目標の実現のため協働体制のもと尽力することができた。今後も、「子どもに寄り添い、子どもの事実から学ぶ指導体制」を構築する中で、「児童理解」と「教科研究」の両面から教育活動を推進していきたい。

4 自己評価結果 (A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない)

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	・ 学習タイム、少人数指導、個別指導の充実、分かる授業づくり	B	○言語能力、思考力や判断力等の育成につながる授業づくりを推進する。 ○ペア、グループによる対話的な活動の工夫と充実を図る。 ○個に応じたきめ細かな学習指導の推進と多様な学習課題の設定を図る。 ○朝読書や家庭読書を推進し、進んで読書する子に育てる。 ○「姿勢保持、体幹トレーニング等」を意識した取組を全学的に実施する。
	・ 道徳教育	・ 地域道徳教材の活用、重点目標を意識した授業実践と工夫	B	
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	・ 楽しい授業づくりの推進、ALTを活用した授業の推進	B	
	・ 総合的な学習の時間	・ 探究的学習の推進、体験的な活動の充実、地域人材の活用	B	
	・ 特別活動	・ 児童会活動の活性化、話し合い活動、縦割り班活動の充実	A	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	・ 情報発信、オープンスクール、授業参観、地域人材の活用	B	○学校危機や問題行動の情報共有と一貫した指導に努める。 ○学校通信やHPの更新等による適切な情報発信に努める。 ○子どもの実態をしっかりと捉え、実態に即した教育活動を実施する。 ○校内研修組織の充実を図り、「授業デザイン」の共有と推進に努める。 ○子どもの声が反映される学校行事の実施に努める。
	・ 勤務時間の適正化	・ 定時退勤日の実施、業務の「見える化」の推進	B	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	・ 中学校体験入学、小中授業参観、幼小連携、情報の共有化	B	
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	・ 生活指導委員会、児童理解とアセス活用、いじめ防止基本方針	A	
	・ 職員研修の推進	・ 校内研修の充実、非認知能力の理解と啓発、校外研修への参加	A	
	・ 危機管理体制の整備	・ 安全点検と整備、通学路点検と防犯ボランティアとの連携	A	
課題教育	・ 非認知能力の向上	・ 演劇ワークショップ、各教科等における意識化と場の設定	B	○演劇ワークショップを通して変容する「こどもの姿」を共有し、各教科・特別活動等において積極的に教育活動に取り入れる。 ○学校ボランティアを募り、積極的に学校に関わってもらう機会をつくる。 ○朝の「三江っ子タイム」を「読書・学習」の時間とし、落ち着いた雰囲気の中で1日をスタートする。 ○内面的にはやさしい児童が多く、そのよさを友だちへの関わりに広げていくために、全校で取り組む「福祉体験活動」を実施する。 ○「コウノトリ」をテーマにした環境教育の取組は今後も必要性を感じる。 ○地域と連携した地域のよさを体験させる取組を計画・推進する。 ○キャリアパスポートを有効に活用しながら、「なりたい自分になるため」の夢や目標を持つことの大切さについて、今後も指導を継続していく。
	・ ふるさと教育	・ 地域教育資源（ひと・もの・こと）の活用、家庭との連携	B	
	・ コミュニケーション教育	・ コミュニケーション授業、対話・協働性を意識した場の構築	B	
	・ キャリア教育	・ 「なりたい自分」の意識化、キャリアパスポートの活用	A	
	・ 人権教育	・ 教材活用、学級経営と人権意識の育成、福祉教育の推進	B	
	・ 特別支援教育	・ 教育相談、職員研修による児童理解の推進、個別支援の充実	A	
	・ 環境教育	・ コウノトリとの共生、環境体験事業、飼育栽培活動	B	
	・ 安全教育・防災教育	・ 避難訓練、防犯訓練、交通安全指導と自転車実習、校外児童会	B	
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	・ 外あそびの推進、健康教育授業、給食指導、保健だよりの発行	A	
・ 読書活動	・ 家読の啓発、読書の推進、図書室環境整備、読み聞かせの充実	B		

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

評価方法は適切であり、教職員の評価についても適切な評価がなされていると判断している。また、保護者の意見に対してしっかりと受けとめ、教育活動の改善に向けて取り組んでいこうとする学校の姿勢は今年も評価できると考える。

6 総合的な外部評価

アンケートの結果から、昨年度と比較しやや低下しているが、概ね良好な結果であることがわかる。評価結果の根拠や理由も適切に自己評価し改善に向けた取組の様子がうかがえる。地域と学校との交流や様々な学校教育活動の取組等、全職員が協力して教育活動の推進に尽力されている感がある。しかし、近年、家庭における問題点も多く、学校とともに子どもたちの実態を把握し、保護者への啓発も含めて考えていく必要性を感じる。（特に「省テレビ・省ゲーム」・挨拶・睡眠）

自己評価の妥当性
○教育課程について
・ コロナ禍の中、授業研究に熱心に取り組まれていると感じる。今後もわかる授業をめざして取り組んでほしい。
・ 読書の大切さを感じる。引き続き推進に力を入れていただき、本が好きな子になるような取組を進めてほしい。
・ 主体的に活動する力を大切にしてほしい。大人が手をかけすぎずに、子ども自身で活動できる機会をお願いしたい。
○学校運営について
・ 小中一貫教育については教師間連携だけでなく児童生徒間交流も推進しているが、幼小連携については十分でない。
・ 危機管理への対応が迅速であり今後も大事にしてほしい。
・ いじめの防止に向けて、今後も地域や保護者としての役割をしっかりと考えながら、協力した関わりについて考えていきたい。
○課題教育について
・ 挨拶をすることの大切さを継続し指導していただきたい。挨拶できる子とそうでない子との二極化があり、全体的にはまだまだな感じがする。
・ 今年も難しい中だったが関係機関や地域との協働体制が図られ、効果的な体験学習が実施されていると考える。
・ 一人一人の子どもに目を行き届け、指導していただいていると感じる。人権教育のこと、いじめのこと、命を守ることなど、人権意識の高揚をさらに高めてほしい。
・ 子どもたちが毎日元気に登校できていることがよい。